

その9

第8章：肉欲の武器-サタンを叱責する

キム・リドルバーガーは、「キリスト教というよりもギリシャやペルシャの神秘宗教と共通点のあるグリッドを通して世界（靈的）を見始めている新世代のクリスチャン」がいますと言っています。

“まるで神秘主義がキリスト教と結びついて、ミスティアニティと呼ばれるハイブリッドになったかのようなようです。

このことは、現代の靈的戦いの方法論の領域ほど顕著ではありません。現代の福音主義の大部分が無批判に受け入れている靈的戦いへのアプローチは、聖書的なものというよりも、異教的な神秘主義との共通点が多いのです。

ここまで来ると、私が提唱している靈的戦いのアプローチは、ほとんどの教会で実践されているもの、ほとんどの牧師が教えているもの、そしてほとんどの靈的戦いの「専門家」が受け入れているものとは大きく異なることにお気づきでしょう。

私は、靈的戦いとは、主に、神の真理を宣べ伝えることによって、誤ったイデオロギーに対して行う真理の戦いであると信じています（2コリント10：3～5）。

人々は、福音によって暗闇から光へと一度で完全に解放されるのであって、祈りや放棄、マントラなどの呪文を繰り返し唱えることではありません。

悲しいことに、クリスチャンの平均的な靈的戦いの考え方は、地獄の門を襲撃し、悪魔と戦い、サタンとその財宝と直接対決するような、悪魔との手に汗握る戦いです。

これは、言葉で罪や呪い、悪魔の要塞を放棄することによって行われます。

クリスチャンは、いばらの垣根を祈り、特定の「束縛の祈り」によってサタンを束縛し、サタンを叱責するように言われています。

クリスチャンは、領土的な靈に対して祈ること、悪魔に名前を付けること、そしてもちろん、長年の人気である悪魔祓いをするのを教えられています。

これまでに、生け垣を作る祈り、呪いを放棄する祈り、サタンを束縛する祈りについて分析してきました。ここでは、「サタンを叱る」という行為に注目してみましょう。

「サタンを叱る」とは？

現代の靈的戦いの教師の多くは、キリストにある信者の権威が、サタンや悪靈に対する力を与えてくれると信じています。

この力は悪魔の力がイエスや使徒の命令に従ったように、私たちの命令に従わせるために使われます。

多くの人が「サタンを縛る」ことに重点を置いているのは、信仰者の権威に対するこのような考え方の現れです。

一般的に、私たちは、「イエス・キリストの血と名によって、サタンよあなたを縛ります」というような簡単な命令で、サタンの活動を制限し、止めることができると考えられています。

また、この権威は、戦闘中に悪魔に命令してコントロールしたり、悪魔を言葉で叱責したり、悪魔を祓ったり、さらには不合理で無生物の従順さを命令する力を信者に与えていると考えられています。

霊的戦いの専門家であるニール・T. アンダーソンは、サタンに向かって直接声を出して祈ることを提唱しています。

アンダーソン氏は、著書『The Bondage Breaker』の中で、武具のリストに記載されている攻撃的な武器は神の言葉だけであると主張しています。

『エペソ6：17でパウロは「言葉」を表す「ロゴス」の代わりに「レマ」を使っているので、パウロはイエスに擬人化された神の言葉ではなく、話された神の言葉を指しているのだと思います。

私たちは、神の真理を声に出して語ることによって、悪しき者から身を守らなければなりません。神はあなたの心の思いと意図を知っておられるので、あなたは自分の心と精神で神とコミュニケーションをとることができます（ヘブル4：12）。

神との言葉によらない交わりは、あなたのプライベートな聖域であり、サタンはあなたを盗み見ることはできません。

しかし、それと同じように、あなたが自分の考えだけでサタンに立ち去るように言っても、サタンはあなたの声が聞こえないので立ち去りません。

あなたは声を出してサタンを打ち負かさなければなりません。幸いなことに、サタンの攻撃は夜や一人の時に起こることが多いので（これは朗報です）、声を出してサタンに抵抗しても、他の人にサタンに立ち去るように声で命令したことを説明しなければならないことはほとんどありません。

しかし、敵に対抗するためには、イエスが主であることを口で告白することが必要になるかもしれません（ローマ10：9）。』

この部分でのアンダーソンの聖句の扱いは嘆かわしいものがあります。

エペソ6章の神の言葉は、神が語られた言葉であって、信者が語る言葉ではありません。したがって、信者が精神的に、あるいは声高にその言葉を繰り返すこととは関係ありません。

言霊信仰運動の偽教師たちは、サタンとその悪魔を叱責し、キリストにある自分の権威を誇示して悪魔に自分の意志に従わせることでよく知られています。

ベニー・ヒンは、イタリアのローマで行われた聖霊のミラクル・キュアで、ガンの女性を癒したと思

われるときに、「私たちは、このガンの霊を、その人の心の中で反撃します」と言いました。

神の子イエス・キリストの名において 私はそれが彼女から出て行くように命じる。”4]

ネットで「サタンを叱る」を検索すると、このテーマに関する多くの救いのミニストリーの教えが出てきます。

例えば、ブリット・メリックは、2010年5月19日のブログで、「キリストのために宣教しているときに、悪魔に対処するように求められたら、キリストと同じように対処すべきです。イエスは言葉で悪霊に立ち去るように命じられました（Mark 5:8）。その後、使徒言行録の教会がこの同じモデルに従ったのを見ています（使徒言行録16:16-18）。私たちの前に設定されているモデルは、言葉による悪霊への命令と叱責です。」

メリックは、「なぜ神は私たちに悪魔と直接話すように言われるのでしょうか」という質問に答えようとしています。

メリックは次のように述べています。

「聖書には、悪魔が私たちの考えを聞いたり、心を読んだり、私たちの内面の対話を意識したりできることを示すものは何もあります。私たちは声に出して悪霊を戒めなければなりません。イエスは、ご自分の名によって悪霊を追い出す権限を私たちに与え（マルコ16:17）、言葉で悪霊に命令するモデルを私たちに示しました。」

これは、さまざまな解放のミニストリーの代表的な神学です。

これは、カリスマの世界では広く受け入れられています。私はこの神学が『殉教者の声』の特別号で非常にユニークな方法で適用されているのを見て驚きました。

『The Voice of the Martyrs』の創刊者であるリチャード・ワームブランドは、「Rebuking the Devil（悪魔を叱責する）」と題した記事を書いています。

『ワームブランドは、クリスチャンは悪魔に命令したり、縛ったり、叱ったりする権威を持っていると信じていました。

さらに彼は、私たちがイエスの名において神の言葉を語る時、たとえそれが無生物であっても、私たちが語るものはその命令に従わなければならないことを証明しようとしていました。

彼は自分の主張を裏付ける物語を語りました。アメリカの牧師、ディック・イーストマンは、文明国の首都を分断する厚い壁、つまり共産主義者が建てた「ベルリンの壁」について、大きな負担を感じていました。

その壁が家族や友人を分断していることを知っていたので、彼は神に嘆願しました：「あなたが山を動かすように祈れば、山は動く」と書かれています。多くの人がこれを祈っています。なぜ、あなた

は約束を果たしてくれないのですか？」

ある夜、イエスはこう答えました。

「私は、あなたが祈れば山を動かすと約束したことはありません。あなたが（私ではなく）この山に向かって『動け！』と言うならば、動くだろう』と言ったのです。（マタイ17：20）。

私のところに来ないでください。ベルリンの壁に話しかけてください。」

イーストマン牧師は、壁が崩れるように説得するために、はるばるベルリンまで行ってきました。

しかし、崩れませんでした。彼はイエスに文句を言いましたが、イエスは次のように答えました。

「何人かの信者を連れて行きなさい。」9] 牧師は数人の信者を連れて二度目のベルリンに行き、ベルリンの壁を壊すように命じました。

一行は、話をした石の上に十字架のサインをしました。数日後、壁は消えていました。ドイツは再統一されたのです。悪名高い壁の破壊には様々な要因がありましたが、無生物に語りかけた言葉が決定的な役割を果たしたことを否定する人はいないでしょう。。。』

お言葉ですが、私はそうは思いません。

私は、神の言葉を無生物に語りかけることで、無生物に影響を与える力があるとは一瞬たりとも思っていません。

山を動かすというイエスの言葉を、そのような木訥な文字通りの意味で捉えることは、イエスの言葉を悪用することになります。

同じ記事の中でワームブランドは「私たちが遠く離れた無生物に語りかけることができます」と書いています。

なぜイーストマン牧師は2度もドイツに行かなければならなかったのでしょうか？ワームブランドはこれらの教えについて、聖書的にどのような根拠があるのでしょうか？彼は次のように書いています。

「イエスは木に枯れるように命じられ、枯れました。嵐が止むように命じられ、平安が訪れました。しかし、イエスはそれ以上のことをされました。ある時、イエスは悪魔と会話をしました。マタイ4章に書かれているのは、その概要だけかもしれませんが、要するに、イエスは悪魔に御言葉を引用し、悪魔は退かざるを得なくなったのです。別の機会には、子供に宿った悪魔を叱りつけると、その悪魔はすぐに彼から離れていった（マタイ17：18）。悪魔は知的な存在です。私たちが言うことを理解します。私たちが彼らを私たちの命令に従わせることができます。

もし、イエスがその霊によって私たちの中に住んでいるなら、私たちが悪魔を退散させることができます。10]

上記の教えの背後にある前提は、もしイエスがこの地上で何かをしたのなら、私たちも同じことをする権威を持っているということです。イエスが嵐に語りかけて海を静めたのなら、私たちも物に語りかけて、自分の意志に従うように命じることができるのです。

では、なぜWumbrand氏やディック・イーストマン氏は、世界中の飢えた人々のためにパンや魚を増やさないのでしょ

うか。彼らは、迫害されている教会に行き、刑務所のドアや刑務官に神の言葉を語り、鎖につながれているクリスチャンを解放しないのでしょうか？

なぜWumbrand氏は、捕らえられていた自分の刑務所のドアを開けるように命令しなかったのでしょうか？それが、彼の神学から導き出される論理的な結論です。

イエスは、ご自身のメシアとしての主張を証明するために、『しるし』を行いました。このような『しるし』は、『受肉した神の子の特権』であり、『あらゆる時代の信者の規範』となることを意図したものではありませんでした。

このようなことが、今日の信者が従うべき模範であると示唆するのは、聖書本文の悲しい乱用です。

霊的戦いの専門家であるマーク・ブーベックは、彼の娘ジュディを圧迫し、病気や吐き気を引き起こしていたと思われる悪魔と遭遇したときの体験談を紹介しています。

心身症ではなく、悪魔の問題だと確信したBubeck氏は、「これらの苦しめている力に直接働きかける」ことが最善の方法だと考えました。

そして、「サタンの王国に対する私たちの大いなる勝利と主の力を語る」聖句を読み、祈りました。

この時点で、私は彼女を苦しめている暗黒の力が現れるように命じ始めました。私は彼女の能力の前に彼らと呼ば

び、私の質問に答えるように命じた。「主イエス・キリストの御名において、サタンと、ジュディに対して特別な任務を与えられていないすべての邪悪な霊たちに、私たちの前から立ち去るように命じます。ジュディを苦しめている暗黒の力との戦いに、いかなる干渉も侵入も許しません。ジュディを苦しめているすべての暗闇の力を封じ込めるように命じます。働いてはいけません。いかなる方法でも彼女を傷つけてはならない。ジュディの人生から抜け出し、主イエス・キリストがあなたを送る場所へと、一方通行で行くこととなります。あなたは二度とジュディを苦しめてはいけません。私はジュディの能力の前にあなたを呼びます。あなたは私の質問に、彼女の心を通して明確な答えを出さなければなりません。それ以外のことを話してはいけません。私の質問に対する答え以外の話はしないでください。私は、この恐怖、吐き気、および関連するすべての問題を担当する暗闇の主な力に注意を払うように命じます。主イエス・キリストの名のもとに、あなたに説明を求めます。あなたの名前は何ですか？」

続いて、悪魔との会話で、この苦悩に責任を持つ悪魔の力の「階層」を明らかにしました。悪魔が完

全に暴かれたことを十分に確信した後、ブーベックは「主イエス・キリストの名のもとに、あなた方全員を束縛します」というような祈りをもって、「彼らの退去を命じました。主イエス・キリストの御名において、あなた方を縛ります。主イエス・キリストの名のもとに、あなた方を束縛します。今すぐに行くように命じる。」^{17]} 悪魔に反抗することは、誘惑に対する迅速で効果的な答えとして提示されています。悪魔に誘惑されて罪を犯すときには、「欲望」「アルコール」「うつ」「同性愛」「ポルノ」「心配」「ゴシップ」などの悪魔を退治するように言われています。

悪魔を撃退することで、家族の暗闇や罪からの解放が得られます。

サタンを束縛しようとする神学と同じように、悪魔を非難することで、悪魔が私たちから逃げたり、身を縮めたりするようになると教えています。

そのため、キリスト教界では、牧師や教師がサタンを叱りつけ、サタンとその悪魔に退去や活動の停止を命じることが珍しくありません。

イエスがサタンとその悪霊を叱ったのなら（マルコ1：25、マタイ17：18）、私たちもイエスの名によってサタンに命令することができ、サタンは私たちの命令に従わなければならないと信じられています。

聖書に「サタンを叱る」という言葉はありますか？

はい、あります。

しかし、現代の霊的戦いの教師たちの神学にとって好ましい方法ではありません。

2 ペテロと偽りの教師

ペテロがその第二の手紙を書いたのは、主を否定する破壊的な異端を密かに持ち込もうとする偽教師について警告するためでした（2ペテロ2：1-3）。

ペテロは、真理と教会の健全性を脅かす教義を持つ、邪悪で神に反する者たちの現実的な脅威に立ち向かうために、読者を準備させようとしていました。

ペテロは、これらの人物とその教えを説明する中で、主は、神に仕える者を誘惑から救い出し、不義の者を裁きの日のために罰しておく方法を知っておられること、特に、肉の墮落した欲望に溺れ、権威を軽んじる者を知っておられることを読者に伝えています。

大胆で自己中心的な彼らは、天使の威厳を侮辱しても震えることはなく、一方で、力と権力で勝る天使たちは、主の前で彼らに対して侮辱的な裁きを下すことはありません。（2ペテロ2：9-11）^[18]

彼らの父である悪魔のように、これらの偽教師たちは、自己中心的な傲慢さを示しています。彼らの自己中心的な傲慢さと無謀さは、「天使の威光（栄光ある者）を侮辱しても、彼らは震えない」（10

節) “ they do not tremble when they revile angelic majesties ” (v . 10) . という事実に見えています。

この箇所では「侮辱するrevile」と訳されている言葉は「ブラスペミオ blasphemeo」で、これが英語の「blaspheme」の語源となっています。

この言葉は、「誹謗中傷する」、「神聖なものを軽んじる、冒瀆する」という意味です。”ここでいう「天使の威光(栄光ある者)」とは、悪魔のことです(ユダ8章参照)。

彼らは、人間を超えた超自然的な存在であるという意味で、「威厳」[19]を持っています。20]

これらの偽教師たちは、権威を軽々しく否定して、自分たちが墮天使よりも優れていて、墮天使を支配することができると思込み、墮天使の悪口を言っていたのです。

これらの偽教師は、ただの人間よりもはるかに大きな力と力を持っている天使と対比されています。

しかし、正しい聖なる天使たちは、サタンとその悪魔を非難したり、侮辱したり、悪口を言ったりしないにもかかわらず、偽教師たちはするのです。

彼らは、ただの墮落した人間である自分たちが、悪魔に命令して支配する力と権威を持っていると無謀にも思い込んでいます。

聞き覚えがありませんか？

ペテロは、このような無謀な偽教師を「理不尽な動物のようなもので、捕らえられて殺される本能の生き物として生まれ、知識のないところで悪態をつく」と表現しています。

彼らは、「そのような生き物が滅びるときには、自分も滅びることになる」と断言しています(2:12)。

彼らは、自分が知らないことについて悪口を言う。ユダもペテロと同様に、偽教師についてクリスチャンに警告するために書きました。

ペテロが教会に入ってくると警告した偽りの教師たちは、教会に入ってきていたと、ユダは指摘しています(v.4)。

実際、ユダはペテロが警告したように、権威を否定し、天使の尊厳を冒瀆していることを指摘しています。

しかし、これらの人々も同じように、夢によって肉を汚し、権威を否定し、天使の尊厳を冒瀆しているのです。

しかし、大天使ミカエルは、悪魔と争ってモーセの体について議論したとき、あえて彼にひどい裁き

を下すことなく、「主があなたを戒めておられる」と言った。

しかし、これらの人々は、自分が理解していないことを侮辱し、理性のない動物のように本能的に知っていることは、これらのことによって滅ぼされるのである（ユダ8-10）。21]

ペテロと同様に、ユダも偽教師に特有の権威の拒絶を指摘しています。

ここでも、彼らが「天使の威光を侮辱する」ことで、その傲慢な思い上がりが示されています。”ユダは、ペテロと同じ言葉を使って、墮落した天使たちを叱り、罵り、悪口を言う行為を表現しています。ペテロは、聖なる天使は、その高貴で強大で栄光に満ちた地位にあっても、墮落した天使を侮辱することはないと述べていますが、ユダは、大天使ミカエルにおける非常に具体的な例を示しています。

ミカエルは、モーセの遺体の管理を任されていたようです（申命記 34：5－6）。もしユダのこの箇所がなければ、モーセの体をめぐってミカエルとサタンが争っていたことを知らないでしょう。

ユダは、このようなことが起こったとき、ミカエルは「あえてサタンに不利な裁きを下さなかった」と記しています。その代わりに、ミカエルは、主権者である主だけがサタンを戒め、制御し、命令できる立場にあることを知っていました。

ミカエルは、あえてサタンを叱責したり、侮辱したりすることなく、主に服従したのです。自分は何者だと思いますか？神の最高位の聖なる天使があえてしないことを、罪深い墮落した人間がその権限を僭称してする。それは考えられないことです。私は、「サタンよ、イエスの名によってあなたを叱ります」と大胆に宣言するクリスチャンの前にいたことがあります、「あなたは自分を何様だと思っているのか」と思いました。

悪魔を叱責したり、命令したり、嘲笑したりするのは、効果的な霊的戦いの道具ではなく、高慢で、傲慢で、自分の意志を持たない偽教師の特徴です。

ベニー・ヒン、ケネス・コーブランド、ロバート・ティルトン、ジェシー・デュブランティスなどの偽教師の話を書けば、彼らが常に悪魔を嘲笑し、叱り、なじるのを聞くことができます。

彼らは霊的戦いの達人ではありません。

彼らは無知のうちに悪態をつき、誤りと判断に真っ逆さまに突進する理不尽な野獣です。

だからといって、そのような言葉を口にしたことのあるクリスチャンがすべて偽教師だということになりますか？

いいえ、そんなことはありません。霊的戦いの性質や敵の性質について、単純に勘違いしている人もいます。

彼らは無知のまま行動しているのです。ペテロが言うように、彼らは「知識のないところで悪口を言

っている」のです。

ユダは、彼らが「自分の理解していないことを侮辱している」と言っています。

私は、暗闇の力に立ち向かおうとする誤った試みの多くは、これで説明できると思います。

これは、神の言葉に対する無知が、霊的戦いの分野での間違った実践につながっている例です。

このような行為に対して、1つではなく2つの厳しい警告があるので、私たちは「なぜこのような行為をしたいと思うのか」と問わなければなりません。

なぜ、大天使ミカエルよりも力があると思うのでしょうか？

注意すべき問題点

墮天使との大胆な対決について警告されていること以外にも、この行為には多くの問題点があります。

第一に、初代教会でこのような実践が行われた肯定的な例は一つもありません。

使徒言行録19:11-20に出てくるScevaの息子たちのように、神の保証がないにもかかわらず、そのような権威を僭称した人たちの否定的な例があります。

ルカがこのエピソードを記録したのは、パウロが行った異常な奇跡（悪魔祓いなど-使徒言行録19：11）がすべての信者の標準であると傲慢に考える人がいないようにするためです。

イエスと使徒を除けば、教会の中でそのような悪魔の力との大胆な対決が行われていたという記録はありません。

実際、パウロ自身も、自分を苦しめるために送り込まれたサタンの使いである「肉のとげ」に悩まされたとき、このような悪魔の力への対処法のモデルとはなりません（2コリント12：7～10）。

パウロは、悪魔を縛ることも、悪魔の使者を叱ることも、サタンを投げ落とすことも、サタンを侮辱することも、また、とげの背後にいる霊と対決することもしませんでした。

しかし、このような行動は、ブーベックやアンダーソンなどが提唱していることと同じです。

使徒の例は、悪魔に抵抗すること（1ペテロ5：9）と立つこと（エペソ6：10-14）であり、縛ったり叱ったりすることではありません。

新約聖書では、クリスチャンがこのように悪魔に対処した例がないだけでなく、悪魔を叱ることについての命令や指示も一つもありません。

この書簡では、カルバリーですでに勝ち取った勝利、抵抗すること、立ち上がることに重点が置かれ

ています。

第二に、これは誤った方向に焦点を合わせることになります。

私たちの祈りの焦点は、悪魔ではなく、神であるべきです。私たちの注意や祈りを、悪魔に命じたり、叱ったり、話しかけたりすることに向けるのは、賢明とは思えません。

クリスチャンの祈りの焦点は、神の栄光、キリストの性質、そして三位一体の神の自己の栄光化のための働きであるべきです。

霊的戦いへのこのアプローチは、悪魔とその活動に重点を置っていますが、悪魔はきっと楽しんでいくことでしょう。

使徒の著書や初代教会の生活の中には、同じような強調や誤った方向への集中は見られません。

使徒や初代クリスチャンの祈りの記録の中には、サタンや悪魔を非難した例は一つもありませんでした。

第三に、サタンの力と信者の権威があまりにも強調されています。

サタンは敗北した敵です（ヘブル2：14-15、コロサイ2：15）。これは、私たちがサタンの脅威を真剣に受け止めるべきではないということではありません。

しかし、現代の霊的戦いの教師たちは、彼の脅威を真剣に受け止めるべきではないと言っています。しかし、現代の霊的戦いの教師たちは、彼をあまりにも信用しすぎています。

さらに、彼らは、信者であることで得られる「権威」を強調しすぎています。

私たちは、キリストとともに天の場所に着座していますが（エペソ2：6）、その地位的特権は、イエスや使徒に匹敵する奇跡を起こす力を与えるものではありません。

第四に、神から与えられた誘惑への対処法は、神が提供された逃れる道を取ることであり（1コリント10：13）、誘惑の背後にいると思われる悪霊を叱ることではありません。誘惑に対してすぐに解決できる方法はありません。私たちは、誘惑に抵抗し、耐え、逃れなければなりません。私たちは、自分の体を義の道具として用い、罪を犯さないようにすることを学ぶことで、聖なる者として成長していきます（ローマ6：12～23）。悪魔を撃退しても、誘惑がなくなるわけではありません。私たちは、自分の肉に誘惑され、自分の欲望によって道を踏み外してしまいます（ヤコブ1：14）。

聖化と勝利のクリスチャン生活の手段として「サタンを叱る」という教えは、神の聖化のプロセスを妨げるものです。

この誤った神学は、正しい道徳的選択ではなく、正しい言葉（例えば、「イエスの名によって、サタ

ンを縛り、戒めます」)によって、誘惑に対する勝利が得られると教えています。

聖書的には、悪魔を倒すのではなく、肉を否定することで勝利を得るのです。

この教えでは、誘惑を賢い道徳的選択によって対処すべきものと考えのではなく、神秘的・魔法的な世界観に沿った儀式的な対応を採用しています。

私たちは悪魔を非難してはいけません。これは全く必要のない、聖書に反した、賢明でない行為です。

私たちは、このような方法で真理の戦いをするように命じられていません。

サタンを縛ること、生け垣を祈ること、呪いを放棄することと同様に、悪霊を叱ることは、神が私たちの武器に入れていない道具です。

それは完全に人間が作った戦術で、私たちの肉のプライドに訴えるものです。

サタンは私たちの役に立たない呪文を恐れませんが、それを捨てて、真理の宣教と交換しようではありませんか！

注1. チャック・コルソン、J.I. パッカー、R.C. スプロール、他 ... Power Religion (Chicago : Moody Press , 1992) , 278 .

2. このアプローチでは、サタンとその悪霊にどれだけ重点が置かれているかに気づかないわけにはいきません。このようにサタンへの対処に力が注がれると、あっという間にサタンが信者の心の焦点となってしまいます。

3. ニール・T. Anderson, The Bondage Breaker (Eugene, OR : Harvest House Publishers, 1990) , 84 - 85 .

4. ビデオは、<http://www.youtube.com/watch?v=Uw-B7sEAZO0> .

5. <http://brittmerrick.com/brittmerrick/?p=872> . 強調しています。

6. 同上 . 強調しています。

7. 以下のリチャード・ワームブランドの言葉はすべて、『殉教者の声』特別号(1994年)から引用しています。私は、リチャード・ワームブランド氏と、彼が世界中の迫害されている教会を支援し、迫害されている同胞の窮状を自由主義国の信者に知らせるために行ったすべてのことに、多大な尊敬と称賛を抱いています。ワームブランド氏が主を畏れ、主に忠実に仕える神のような人であったことは間違いありません。しかし、私は彼の出版物の中で、彼の霊的戦いへのアプローチ、彼が提唱した実践、そして聖句の扱いが間違っていることに問題があると思います。

8. Eastman氏は、聖書のある文章の意味について、イエスが神の啓示を語ったと主張していることに注目してください。このような直接の啓示を受けたEastman氏の主張は、聖典を超えたものであり、批判のしようがありません。結局のところ、イエス様がディック・イーストマンさんに話されたことに疑問を持つ人はいないのです。私が聖書学校に通っていた3年目に、アルバータ州カルガリーで開催された大規模な宣教会議に参加したとき、ディック・イーストマンは大々的に基調講演を行い

ました。その会議では、ディック・イーストマンが大々的に基調講演を行っていました。本会議の中で、イーストマンが同じような話をし、「自分は神がベルリンの壁を崩壊させるために使った道具である」というような、驚くべき主張をしているのを聞きました。

9. ああ、もしイエスが最初にイーストマンに話しかけたとき、もっとはっきりと言ってくれていたら……。航空券代を節約できたかもしれませんね。

なぜイエスはお自分の意志を明確にしなかったのでしょうか？他の人を連れて行くようにとの指示を忘れたのでしょうか？もちろん、誰かが神からの個人的な啓示を受けているということをデフォルトで受け入れてしまうと、常識が通用しなくなってしまいます。

10. 強調しています。

11. これは、ケネスとグロリア・コーブランドのような教師が、天気や嵐を自分に従わせる能力があると主張するワード・フェイス・ムーブメントの神学と不気味なほど似ています。

12. 私たちがエクソシスト（悪魔祓い）を行うべきであるという信念の背後には、同じ仮定があります。イエスや使徒が悪霊を祓ったのであれば、私たちも積極的に暗闇の力と大胆に対決すべきだという考えです。第12章では、悪魔祓いに関する聖書の教えを見てみましょう。